

教育委員会からのお知らせ

シンポジウム 共に語り合おう「未来の下諏訪教育」

今、少子・人口減少社会に対応する新たな学校教育づくりのあり方が問われています。教育委員会では、さらなる町教育の充実を目指し、地域の特色を活かした教育を推進するため、シンポジウムを開催します。下諏訪町の教育を、皆さんで考えてみませんか？ 多くの方のご参加をお待ちしております。

- 1 日時 平成25年10月18日（金）午後7時から8時40分まで
- 2 会場 下諏訪総合文化センター
- 3 テーマ 共に語り合おう・未来の下諏訪教育
～地域で育む子ども・子どもが関わる地域づくり～



しもすわびと

- 4 分科会および小テーマ
 - 第1分科会 学力向上・小中一貫教育 「下諏訪らしい学力、将来の下諏訪人を育むために」
 - 第2分科会 国際理解と英語教育 「地域と子どもが育む国際化」
 - 第3分科会 体力向上・社会教育 「学校体育と社会体育の連携」
 - 第4分科会 学校・地域連携、地域に学ぶ 「下諏訪ならではの学び、学びの場、そして郷土愛」

■参加希望の方は、下記にご連絡ください。なお、直接、当日参加も大歓迎です。
連絡先：下諏訪町教育こども課 教育総務係 ☎28-0001

私たちのまちづくり ～設置されたみんなの花「マリーゴールド」～



北小児童は石仏に行く道にプランターを。どこにどんなふうに並べるか、試行錯誤しながら並べていました。

万治の石仏



役場入り口に設置。育てたマリーゴールドに囲まれて町長と語りあう南小児童

役場



下校後、駅前の御柱と温泉の周りに設置する向陽高生

下諏訪駅



大社通り



社中の苗は太くて濃い緑色。丈夫な苗を作るため、丹念に花を摘み取り育てました。咲き揃うのが楽しみです。



設置の後、枯れた花を摘み取り手入れする下中生

伏見屋邸



人権を考える



気がなる光景

ふと通りがかった所で、気になる光景に出会った。重機で掘り起こし、ならした地面に座り込んで二人の男性が目にした。地べたにあぐらをかいて座っている姿が気になったのだ。作業が一段落して、ほっとしているのは伝わってくるのだが、何かおかしい。

「何だろう」と考えながら通り過ぎた。それぞれ三十代前半と後半と思われるたくましい男性である。その二人は、離れて無言で座っていた。無言ばかりか、一人は熱心に携帯をのぞき込んでいた。もう一人は、何もやっていなかった。ぽつんと一人、疲れたように足を投げ出して座っていた。

何ということはない。二人とも、口をきくのがいやなくらい疲れていたのだ。そう思ってみたが、何か不自然であると感じた。通り過ぎる自分の心に、それがあまり愉快でない引っかかりを作ってしまったらしい。

レストランの待合い時間、母親の前で高校生らしい息子が、夢中になって携帯をいじっていた。それを母親は、咎める

でもなく話しかけようとするのでもなく、ただ無関係に退屈そうに料理を待っていた。話しかけても無視されるか、「うるさい」と一蹴（いちしょく）されてしまうのかもしれない。

電車の中の人や通りすがりの人が、夢中になって携帯をのぞき込んでいるのが当たり前になった。「やれやれ…」と思ってしまう。

人と人は、初めから心が通じ合うわけではない。「何を話したらよいか」、話題を探し退屈心をほくしつ、ぼつりぼつりと話してみる。そういうことの積み重ねで徐々に人間関係ができていくのだが、そんな努力は無用らしい。とにかくいやだったら「避ける」「逃げる」。こうして家庭でも社会でも、会話らしい会話はなくなっていく。そして一緒に居れども心はバラバラ、孤独で淋しい人間たちが益々多くなってゆくのだ……。

人権を考える。それは人が人らしくあること、そのためには自分以外の他者とのように関わればよいのかという、本当は、日常的で最も身近なことなのではないだろうか。

(上野)

空

空ってね、元気がない時ながめるとすごくキレイに見える。
どうしてだろう。
ふだん気づかないだけなのかな。
いろんな雲がうかんでる。
空ってね、すごく広い。
私はずーっと走っても、まだまだ向こうに広がってるの。
空ってね、どこまでもつながっているから、いろんな国の人の顔がうかんでくるの。
空ってね、元気がない時ながめるとすごくキレイに見える。
空ってね、ながめてるだけで元気になるの。



十色（じしき）

秋たけなわの十月。食いしん坊の私は、「実りの秋」という言葉から「食欲の秋」を想像してしまいます。町内の田んぼでは、九月から刈り取りが始まり、刈り取った束をはずせに掛け、自然乾燥して脱穀する光景がよく見られます。最近では稲作づくりも機械化が進み、大型の農業機械による農作業が主流となっていますが、町中の田んぼの家族総出による秋の作業風景は、農作業や家族の原風景であり、これからは残しておきたい風景の一つです。

脱穀した玄米は精米して白米とし、一年の実に感謝していただく新米の味は、格別おいしい味であり、耕作に携わった農家の方々に感謝して味わいたいと思います。

新米の他にも、新鮮な野菜や甘くておいしい果物、山の贈り物となるキノコなど、秋のおいしい食べ物を沢山いただき、仕事や生活のエネルギー源にしたいと思えます。(矢島)

